



## 「祈りはきかれる」

～私たちの思いをはるかに越えて…～

「どうか、わたしたちのうちの働く力によって、わたしたちが求めた思うところのいっさいを、はるかに越えてかなえてくださる方に、教会により、また、キリスト・イエスによって、栄光が世々限りなくあるように、アーメン」

エペソ人への手紙3章20・21節

森友学園の問題によって国会は揺れ動いています。徐々に明らかにされていく状況に国民全体が注目しています。籠池理事長の証人喚問の時のテレビ視聴率は16%を越えたということです。これはかなり高い数字となっています。その他にも関連の番組が各放送局によってなされ、安倍首相の妻昭恵夫人と籠池理事長の妻とのメールのやり取りも公表されました。その中で、昭恵夫人が「神様がどこに導こうとしているのか。とにかく祈っています。」という内容を送っていますが、彼女はミッションスクール出身なので、このような言葉を使っているのか。それとも、籠池氏は神道系の学校関係者なので、神道の神のことを語っているのかははっきりしませんが、この苦し紛れのメールの内容の中で、どうしようもなく「神」の名前を使ってその場しのぎをしているようにしか聞こえない内容でもあります。

「神に何かを求める人は多くいるが、神ご自身を求める人は少ない」という言葉や「困ったときの神頼み」という言葉もありますが、私たち人間の祈りというのは、神様ご自身の権威に従うという祈りではなくて、自分たちの願いを神に聞いてもらうという祈りでしかないと言えます。ですから、そのような信仰だけだと、その信仰の成長はありません。

未信者の方に伝道するときも、その部分がネックとなるのかもしれませんが。この世は「自己実現の達成」の世界ですが、聖書の世界は「神実現の達成」の世界です。この世の人が求める神は、人間という相対世界を崩さない程度の神ですが、聖書の神は、「絶対者」であり、その信仰はこのお方に絶対的に従うという信仰です。しかし、このお方は「絶対者」ではありませんが、無理に人々を従わせるお方ではありません。恵みとゆるしと愛によって導かれるお方です。ですから、「あなたの信仰の通りになるように」というイエス様のお言葉のように、私たちがどのような信仰を持つかによって神様の働きは変化します。私たちは神様に願い祈りますが、その答えは私たちの願いや思いをはるかに越えてやってきます。そして、その私たちの思いとは異なる答えを信仰を持って受け取ることができるか、すべてを神様にお任せできるかということが最も大切な信仰の姿勢となってきます。私たちの人生のハンドルもアクセルもブレーキもすべて神様に任せていかれるように成長していかなければなりません。

そのお手本となったのは私たちの愛するイエス様です。その十字架を通して神への従順を示されました。映画「沈黙」もそのことを訴えていると思います。